

三豊・観音寺支部 活動報告

1 研究主題

学びを人生や社会に生かそうとする生徒の育成
～主体的・対話的で深い学びを支える
メディア教育の推進～

2 研究主題設定の理由

現行の学習指導要領において、情報教育及び教科指導におけるＩＣＴ活用についての充実が図られている。これは、中央教育審議会において、社会の変化への対応の観点から教科を横断して改善すべき事項のひとつとして情報教育が挙げられたからである。また、「効果的・効率的な教育を行うことにより確かな学力を確立するとともに情報活用能力など社会の変化に対応するための子どもの力を育むため、教育の情報化が重要である」などの提言がなされたことも一因である。

また、次期学習指導要領においては、「すべての学習の基盤となる力」として、「言語能力（読解力等）」の次に「情報活用能力」が挙げられている。それだけ、ＩＣＴや情報が過去に例がないほど重要視されており、「情報活用能力」は生きていく上での基本的な能力へと変化していると言える。したがって、学校でのＩＣＴ活用も、教員が教える際に役立つからだけでなく、生徒の「情報活用能力」を育てるために大変重要であると考えられる。

以上のことから、メディアの有効活用を通して学習の効率化を図るとともに、生徒の学習意欲の向上および情報の有効な活用を目指して、上記の主題を設定した。

3 研究の概要

(1) 研究の経過

- ・第1回理事・主任・部員研修会（5月2日）
場所 三豊市豊中町支所（セミナールーム）

内容 研究主題、研究組織、研究計画
行事計画作成

- ・夏期研修会（香中研）（8月18日）

場所 e-とびあ・かがわ

内容 講話、実技研修

- ・第2回理事・主任研修会（1月26日）

場所 三豊市豊中町農村環境改善センター

内容 本年度の反省と評価 研究のまとめ

(2) 研究の内容

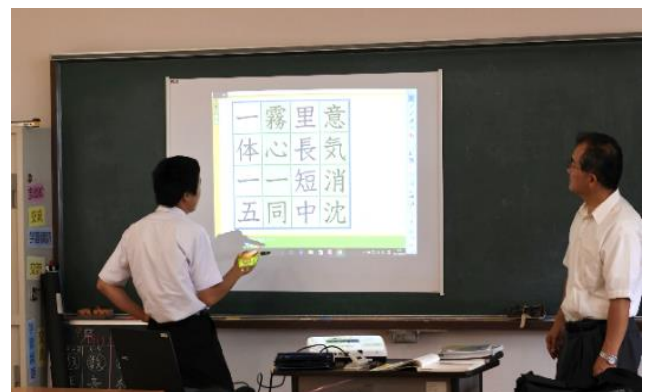
- ・授業における「主体的・対話的で深い学び」実現のためのＩＣＴ機器の有効活用
- ・分かりやすい授業のための教育メディアの効果的な活用法
- ・生徒の学習意欲の向上及び、情報の有効な活用をめざしたＩＣＴ機器の利用法

4 教科での実践事例

(1) 国語

- ・電子情報ボードとＰＣの活用

四字熟語の学習のまとめの時に使用した。電子情報ボードを生徒が操作し、パズルを完成させるというものである。正しく完成させると音が鳴るのでゲーム的な要素で学習意欲を高めるために有効であった。グループで話し合わせ、知識が足りない場合は漢和辞典や国語辞典を用いることで全員が意欲的に学習に参加することができた。



〈電子情報ボードを操作する生徒〉

(2) 理科

・大型テレビと Power Point の活用

生徒が主体的・対話的な学習を進めていく過程で、必要なポイントを PowerPoint を用いて液晶テレビに提示する。提示する内容は

- 授業中に新しく出てきた疑問（調べること）
- 実験時の注意点
- 記録の取り方
- 話し合い活動のポイント など。

活動場面にあわせてスライドを切り替えることで、生徒は必要なことを確認することができ、説明や指示の時間を短縮することで活動の時間を確保することができた。



〈大型テレビの説明を見ながら実験する生徒〉

・インターネット検索ソフトの活用

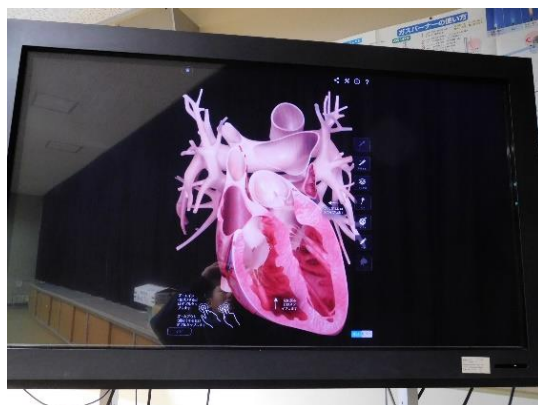
大型テレビにデジタル教科書やインターネット検索画面を提示する。学習課題に対して生徒が授業中、疑問に感じたことをその場で検索、調べることで話し合い活動を活発なものにできた。



〈インターネット検索画面での説明〉

・タブレット端末の活用

タブレット端末から NHK for School に入り、学校ではできない規模の実験の動画や単元の動画などを学習のまとめの際に利用した。簡単に使うことができ、生徒の興味、関心を高めることができた。また、血液の循環や消化・吸収を学習する際、2つのアプリケーションを併用することで、模式的な図で体感的に理解したのち、現実のものに近い画像を見ることでイメージしやすくなった。



〈アプリを用いた心臓の3D画像〉

(3) 美術

・新聞記事と Power Point の活用

新聞記事を読んで感じたことを漢字1文字で表現し、それをイラストと組み合わせて絵文字をつくった。漢字を決め、イメージマップを作り、イラストにできる言葉の図案化を行った。図案化したものと漢字を合体させ、できた作品を Power Point に取り込み、学級全体で鑑賞会を行い、互いに評価し合った。

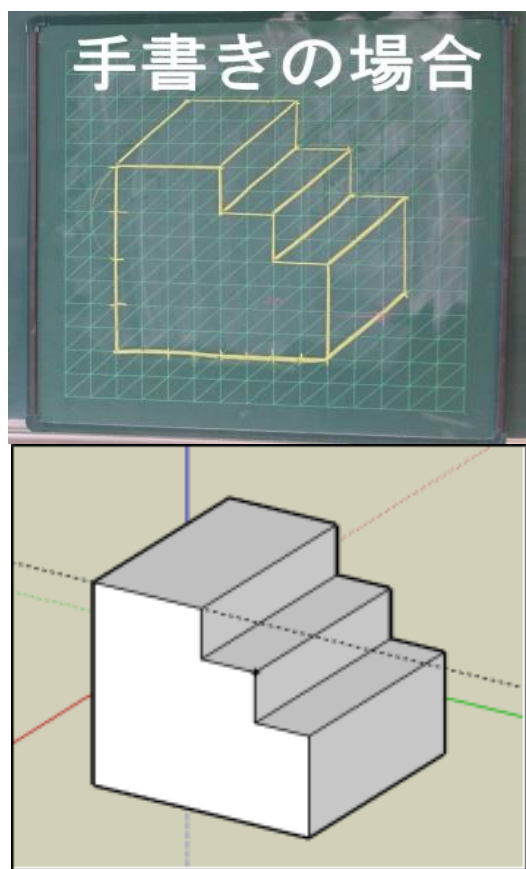


〈図案化した漢字〉

(4) 技術

・Sketch Up Make の活用

製図学習において、図形を多方面から見ることができるため活用した。キャビネット図、等角図から正投影図を描くとき、頭の中で正面図、平面図、側面図をイメージしにくい生徒が多い。また実物を製作して3方面から見るとイメージできるが、数が多いと現実的でない者も多い。そこで、パソコンの画面上で図形の構造を見ることでイメージすることができ、理解力が格段に向上した。



〈Sketch Up 上の製図画面〉

(5) 保健体育

・グラフ作成ソフトの活用

動物エゴグラムを使って自己分析を行う授業で、グラフ作成ソフトを用いた。自分の性格の特徴と行動パターンを分析するために簡単な質問紙を配布し、結果を統計した。その結果をグラフ作成ソフトで視覚的に確認することで、自分に足りないところや目標を再認識することができた。また、クラスの

統計結果を確認することができ、他者の理解に役立った。



〈動物エゴグラムの提示〉

(6) 英語科

・教科書付属のDVDの活用

導入で映像を用いることで、英語が苦手な生徒でも授業に参加しやすい環境をつくることができた。また、スピーチ内容をスライドで提示することで、聞き手の理解の手助けとなった。

(8) 総合的な学習の時間

・DVD「生きて咲く～少女が見つめたハンセン病～」

DVDを事前に視聴し、教員側がより言葉の重さを感じ、指導に活かすことができた。ハンセン病患者の過酷な境遇や、大島で生活する小学生の取り組みなどを具体的に提示することで、ハンセン病への正しい認識を深めることができた。課題を意識して動画を見せる、入居者の証言をメモするなどを意識させることでさらに効果が向上した。

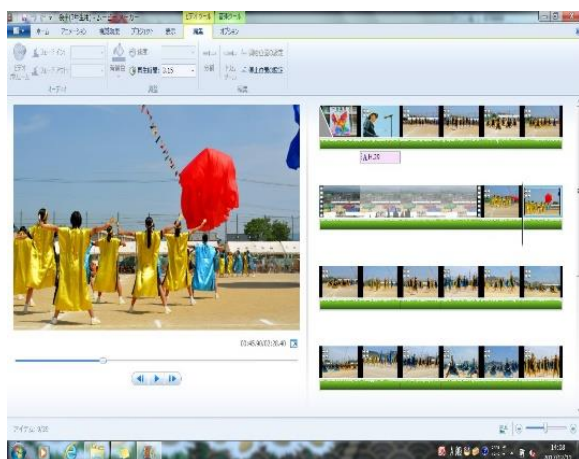


〈DVDを視聴する生徒〉

(8) 学級活動

- ・P C、大型テレビ、ムービーメーカー（動画編集ソフト）の活用

体育祭や修学旅行、職場体験学習、集団宿泊学習などの学校行事の後には、必ず振り返りの学級活動を実施した。その際、ムービーメーカー（動画編集ソフト）を使って作成した行事のスライドショーを視聴することで授業の導入を行った。スライドショーを視聴することで、生徒の興味・関心を一気に高めることができた。しかし、この場合、成功した場面が強調されがちであるので、スライドショーの視聴だけでは改善点やさらなる工夫に目が向きにくくなるかもしれない。



〈制作した動画〉

- ・NHKティーチャーズライブラリー（DVD）の活用

合唱コンクールの歌唱指導として、合唱曲に込められた想いや、実話を再現したドキュメンタリーを見せ、意欲の向上をめざした。ただしインターネットが使用できなかったため、NHKから貸出し用のDVDソフトを借りて視聴を行った。初めのうちは生徒も合唱を通して何を伝えたらいいかわからないまま歌っていたが、DVDを見ることで曲のイメージが変わり、生徒たちの中で「テーマ」を持って取り組むことができるようになった。



〈送られてきたDVD〉

5 研究の成果と今後の課題

どの学校も大型テレビ、プロジェクター、P C等が整備され、教科や学校行事等での利用頻度は高い。映像や音声を含めたプレゼンテーションは日常的に行われ、生徒の興味や関心を高めるとともに、効果的な活用も研修されており、学習内容の理解推進の一助にもなっている。

また、主体的対話的で深い学びにつながるような学習活動にするために、生徒の興味関心を高めることに、大型テレビやスライドショーなどが大変役に立っている。

ただし、現在の環境では、教師主体の活動が主であり、生徒も利用できるタブレット端末やインターネット接続などI C Tを含めた環境の整備を行うことで、生徒の意欲・関心を高め、理解を深めることにつなげるのも、メディア教育の担う大きな役割であると考えられる。今後も「アクティブ・ラーニング」の視点に立った授業の改善および、I C Tが有効に活用できる環境の整備が早急に求められているのが課題であると考えられる。